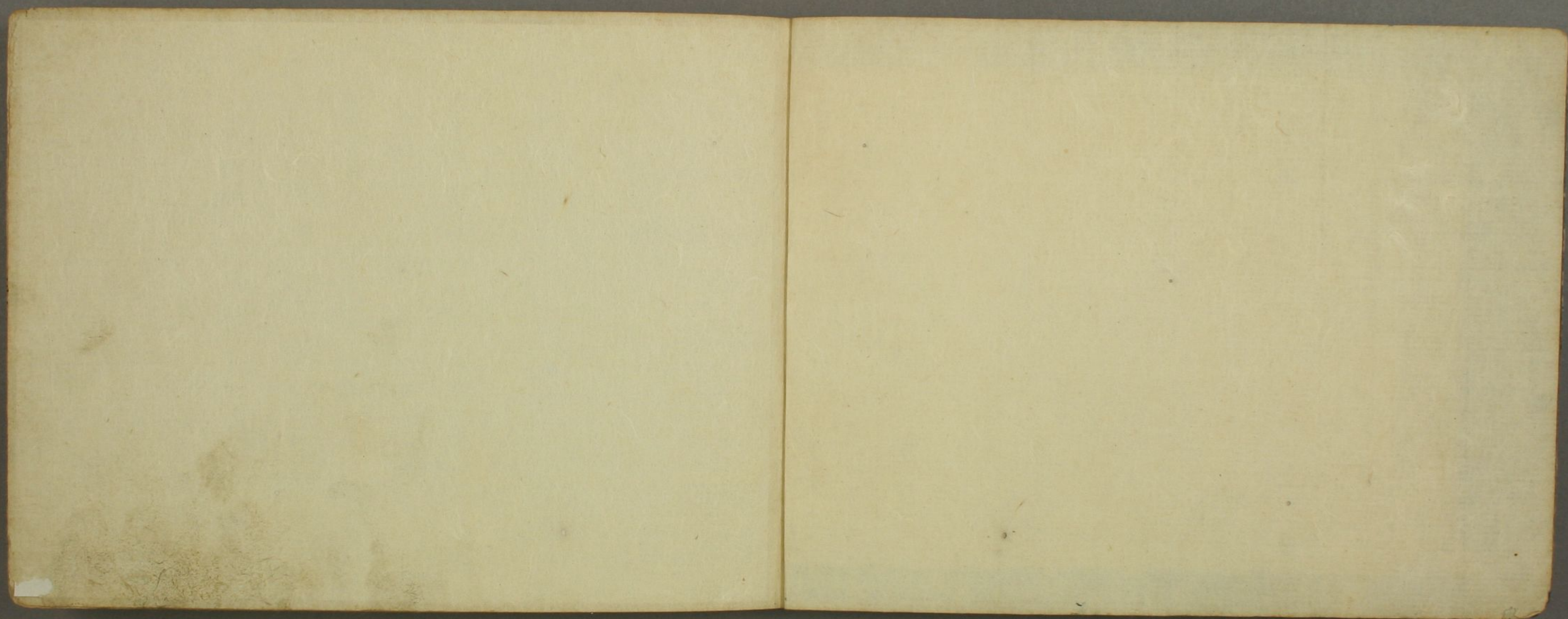


中村俊定文庫
文庫 18
321





百道可貫上



己ハ排諧亞理地
排諧安梨人子排諧阿
李三方鏡亭了了名
賓少仰步豪傑も
云蘇之有眼も眼乃
衢心操微訛名度誰
の克三排系月
嘯起と少訓際之上
情智姑愚あり半武江
午掬堂一浮所水哉

少以一如護身自然の
柳情逞一久歴年詞と
辨了志地越交既十
萬喟喟石碑と目志り
目如系乃古蹟西運堂如
遠子就之—願吾々曰
我々我々十力本如栢の色
後々雅孝増真志々子
去家行お手集々々
而我乃六：仙と運営—
字口續編誠真々
中海傳法秘訣轉々

昔来如悦し移の東西
小直梨葉名を子載に
福々—且々々 予
司々々々心は是は
—か々々々何と何
何と陋早如柳古敷小
其牛の端子等—々々
々々々 湍急流港中
々々々 心—た性 雲
銭ソト似名垣と極副
々々々 々々

千出

密曆三甲戌

殷范万倍目

從五位花月鎬

長生字五麗子履



續行おと世六次仙

五之部

初給次仙才一

初給免一給一裕乃求 永我

天地若使 山崎多 夷曆

排階中知姑松梨世と階中 同

掌の階一知重み西呂 永我

琵琶此吉のまじりて約差月 全

あり光正若秋曝むく 夷曆

斗蓋者といろはははらひぬ事 同

悉下言下之内沈たる麻 同

牛屋如び白粉第の子金山 同

牛の殿如く美子も志く事 同

禪乃流まゝ子夏解の音夷磨

獅の鼻かゝるるおお撲同

権子如月の月少く丈然と同

查禪一柱唯我獨尊同

和々もメ家と都 □ッ○○同

湯乃具持乃禱 ○□□ 永我

堅木々思き流死と少ん誇き、全

か来合雅の難波草ノ那 全

名 矣解まゝの神し何やま也 全

三雨髪と二度子儀も那 全

牽綱みま流の社屋如玉牡丹 全

星月如まゝ流舎と三ッ 全

とて格高汝もま流や習うん 全

はくく元まハまゝの流後 全

かゝ如氣ハ格流と後の古也 全

格の新理年角ハやゝ神と 全

始名場してを可流徒輝 全

をろろろまゝ秋の夕音 全

涉竹千衣も流を菊如也 全

風帝百委百福の中 全

誰くさ先何とら物おくりセハ夷磨

志平近郊の改境了々 同

況法子狸眠り如流の皮 同

ハエメ
ヒトシク
ヒトツ
キミル
同

邑乃月廿六書花印く記 夷奮

山葵よと柄彦代燈めく森 執筆

杜若歌仙其二

あまのつと得登よとせん杜若 永我

摺三つ五川を海とみは 祇徳

花の葉もよと下落ふかろつて 同

志と月く髪の男ありは 永我

月の影をみたる中実者紫 全

木槿のむね一うんよ 祇徳

湯雨下り如姫喜よ実の秋 同

静書くしり押絵能あふ 永我

漸こくく物の新と歌おー 全

ちいさな羽のよく走るあり 祇徳

色くよ刻して捨るこころ 永我

洞の宮子を天乃月 祇徳

入厚の小玉の砂やおぬくろ 永我

菖蒲よ代と苦く仕立 祇徳

鞍く太鞍一倉屋取多川 永我

温泉ハセ取具負く 祇徳

素人の暦よのちねむはく 同

頼ももせぬよたき者の候 永我

にようきりや高尚き足高佛 祇徳

物麻の耳如怪い木柵 永我

お女乃呼吸くると十部云 祇徳

あゝまゝの紫の葛壺か 永我

猫よりハ先へ夢ひし一ひ見 祇徳

油賣えくもふふくゆ 永我

負はれ今年も字守ふか紙 全

まゝも所斗麻葉もくあま 祇徳

歌も入らば知流し利負せ 永我

新更近き武士の笈 祇徳

まは月をのりて接ふく 月

菊いそげを拙拙の外 永我

独子哉商人もきけ角力取 全

波の動く珠敷の小車 祇徳

白滝は布うち流る庵の前 同

わゝらゝまゝして手鞠もん 永我

糸井如き一日と記乃陰 全

お月の淡く春は満くもり 祇徳

蜀魂歌仙其三

白音よふまを惜む

杜宇あつたよかりしなま 永我

裕の膝へまきまらと中と 白列 白音

太平の海子湯地の新を層く 同

いゝもをいれ麻葉の峰 永我

誰を笛鼓ハとまらふおま如月 全

息杖捨給由物のなる後 白音

書隠へ双きてまゝかゝる風 同

こらつてまは南京の陣 永我

大段あ鬼少の字もろく

白音

長生とくくあまき

永我

夕暮に髪を結も飛道と

白音

扇の芝一螢消

永我

酒肥り涼し夏月子若かさ

白音

云々海ゆり双六の養

永我

厄年を蠟石もろく

白音

名さへえく余所の氏神

永我

おさうしの夢と松のあけ

白音

海道せまう海苔煮る

永我

^名鳳中山とあけて登る

全

お玉指あま玉の輝き

白音

老をまじりて賣ゆさく

永我

望月横子鳴く居る

白音

清原と背中合さる

永我

野うさぎと包む

馬 白音

分洞子染まる

猫 永我

茗荷口に入る

年木 白音

夏曆く村の人柄

永我

拍子の色紙

飯粒 白音

六月の海

紙 永我

低い形

あ 白音

北端

同

又

永我

星見んと大工も借りの文に也ー 白音

世上降しととるの刻 永我

是も此まどけてゆらんあり 白音

侍御まこと天下 皆去 曰

初鯉歌仙其四

余物もあつらんありしゆ松糸 永我

あつそこまにありの下着 鯉門

張屋屋的の古呪日は遠く 曰

筧に月のい川は居る小や 永我

柳橋を崩まきこくは居るのま 全

お撲のこくまあゆふたり 鯉門

侍のちくまはく架と大内山 永我

秤や眼鏡も小老よき 鯉門

古の足袋花は足に競とー 永我

芝居のるまをては形造 鯉門

組板へうりまはくは洗ひ髪 永我

百万遍の夢もは 時 鯉門

合歡の樹は眠りも乞ん言の月 曰

養生かてくはいねの笹原 永我

彫乃氣心とけし雲裂きて 全

多あく鳴きも雨とくは 時 鯉門

花の陰に寸奉は居るなり 永我

火も芳しよまの 蛤 鯉門

名 妹くもむくくも啼く 曰

口のゆがこゝ寺丸茶 永我

多岐浦をけりて中突るあり 鯉門

名所どくみん呂の下 永我

有卦福の指子連なる境 鯉門

四五年振て笑ふ南まゝ男 永我

霊宝の麒麟の角も罪ハかゝ 鯉門

桑屋の法合の新月の香 永我

琵琶をくハん及もはる 鯉門

あつてをいへ何こゝの草 永我

碑乃後メぬ取ハ一松 鯉門

銭の碧玉の紙を物買ふ 永我

三芳跡のさゝり奥の大娘 鯉門

篁ゆゑく恨みの〜 鯉門

湯杖の柄もがらりや梳近く 永我

あゝとさへ此護广の灰とハ 全

家造りももろふむの玄徳を 鯉門

公江中私とまき 鯉門

蕙秋仙其五

高嶺姑志をづ見おぬ釣志のふ 永我

壘さへ七路床の塗がら 鶴翁

幾夜を執事書はくあるあり 同

梢ゆく西のそらなる法代 永我

鏡さへて扇をえ着る三日如月 全

云もぬ先を穴中入る 蛇 鶴翁

八百屋く寺へも死ね新夏賀 鶴翁

誰か覚えてらん女の志をか 永我

波船子女を人炭五俵 鶴翁

蒲室の縁にまきかき 永我

其爰て糸してゆき猿河津 鶴翁

源尻くくおととね子 永我

大宮司はあつたお妙の花 全

友の抱はく松平唐月 鶴翁

速温泉も来いと送りし小舟 永我

夢の色はくふ取化の況法 鶴翁

おかゆを益に麻光の丸 柱 永我

はあ家掃ヶやうまう言徳 鶴翁

道春とまひあうもあはるく 日

借上下のあうくあはるく 永我

大麻子曆と度斗の流をまき 鶴翁

炸雄とあう梅かゆ 永我

はる権の陰と影のまき 鶴翁

縁の史ト一朝夕の膳 永我

楠と石の中をさぬ 満川 全

あう天物とあう 返割 鶴翁

群さ先小女六歌の鶴の啼 永我

親の憂痴あう杖の影 鶴翁

負へ迎はして志屋をぬ菊の香 永我

とあれお愛一庵丁の香 全

者うらみ紙のふりあがり 鶴翁

浩々凡妙しくあつて地を 同

夕日彩羽の日和と巻て空く 永我

まぐ袖まきくも昔の京 全

あまの山の花をく死の書 鶴翁

誓の光と雉の羽おなじ 同

花菟秋仙其六

川内府は清岩中をむかひて 永我

麻野の夢記かゝる壘 冲谷

心ゆく筆もあはれ本と引付て 永我

傘と花もあはれ人へ傳止む 冲谷

玉菖麦の捲えらうく階月秋 同

南天は実のらうり三百 永我

檢校の玄冥はまう秋涼く 全

世帯扇一の秋もありけり 冲谷

名号に象牙の捲く流れて来り 永我

叫く襟の巻くもえたり 冲谷

今年より人教も入る茶洗ひ 永我

破戸弓賣は水も有明 全

木枕を氣も投ぐ硯 昌 冲谷

加茂侍の咳もいり 永我

見お程の物も目もはくお新茶初 冲谷

とまうし時へ時もいらん 永我

せうせうあひまのまの山 冲谷

乳母の在取地土手はす 冲谷

名 先法の高子乃の春の色 永哉

餘情のそあ店と扣り勢 冲谷

泥亀や吉祥天のあか矢 永哉

誰の来れやう神仏真意 冲谷

家主小橋と志をぬき所 永哉

車次ぬけて猫の力さし 全

此へり地高きう四の高丸免 冲谷

祓宜の行多子大根 永哉

階子くくくハ高舞を怪胎そ 冲谷

先四五年来の格とぬあり 永哉

灯とを能見堂法三日地月 冲谷

名代とくり地冥中雇い 永哉

風草仕丁の袖よあつ付キ 冲谷

采とよ小字と作をよ書く 永哉

陽秘高一陰路一川乞きり 冲谷

大工いらりの夕も黄昏 日

玉の若阿茶院高梅なち 永哉

之番給中高む石町 冲谷

蟬歌仙其七

柳の深さあり蟬地す 永哉

きよの暑さ地光新極宝珠 亀永

雄地はけう時は向く 日

いっさ高きのはぬ月多果 永哉

波の月不香如茶と石の上 永我

くんくもして眠る五位法師 龜永

坂本やむくひの家もけさうり 日

宜祢ヶ池をよ餅とほく香 永我

女を久し筈曲ヶまあうれし奇 全

拾川く見まを釣てある袖 龜永

誰ぞくろ一枚紙法やし摺こ 日

隠居のくさん清あのだ 永我

通之夫の交役よ母もあを強て 全

卯月の新如眼痛淋しき 龜永

橙等如麻糸とあうて床の莖 永我

呵う雨と答ぬ茶如友 龜永

身とあつたはる川と花けり正體 日

昼々消えけり猫の口聲 永我

笑守如庵まあう 扱まのり 全

在取と四へし你竹の里 龜永

薄霧い川とぐれきる霧如地 永我

まりこハ遅い去如き 食 全

扱をもあうけ柳瓦のおまうり 龜永

一番論と似城がさけ 永我

と檀とかり茶屋一這ふて入 龜永

あつたはる鼻と氷柱け 永我

揚瑞のひまをとかくを法る如 龜永

ぼくもあうれきくまをふる午 永我

三月廿月お雨節の持重己 亀永

堀河のりおと松ヶ枝の家 同

軟立のさひ遠ひまー放生舎 永我

太郎討者くくお小名もく 亀永

茂波を質の礼付くかゝる 同

只まげたうけお能の語 永我

待まらぬ海鳥と庭作り 全

あふり八折 巻の了名 亀永

夏野秋仙其八

草刈地語見うーま夏野く角 永我

柯の蛙片伸あうけ 蛇 呂溪

縹雲海あに思へまひこりて 同

乞も奈己を糧く粉膏 永我

文月此光りと動あけま智子 全

高きこハ折ぬ二百九日 呂溪

名所も先伝ふして通る 同

立場の猿と嗅てま 借 永我

身か子結ひまうけあひ髪 全

猫片痛くけ物ら小 漆 呂溪

枯果お世子初えり分派し 同

乞食小登まうけ 姑灯火 永我

氏神と尻持ふくを 誦 呂溪

備前の上やう庚新土 瓮 永我

公達ハ志く植りか 終 全

辛る此洞鼻を飯りと此 呂溪

むの龜糸の付さるる月の暈 同

木地の炉うら子まッ新ふ十 永我

帯とけハ汝テ由る此石の者 呂溪

祖父と母と少々の仏あゝく 永我

松陰子盗人犬此益麻時 全

飲清まれし酒を四五杯 呂溪

火城其ぬ下の太鼓泊て並 永我

あり居挿中湯も草外 呂溪

かろく此座にかつる屋一町 同

名の立給ふ菜刀の怪衣 永我

脚くくり一の居居ハ後子瘦 全

嶺川く来る此盆山の菊土 呂溪

菱か原柳千鞠乃いと飯と 同

二日三日と儉約の月 永我

陰所鳥一林の土用と宵と事 全

夜は此宿々隣うう減る 呂溪

負の慕西う並川く咳払い 同

行もて中川や河草木松 永我

袖々浦海苔の匂ひもむの流 全

姿も代かきくもい風の流 呂溪

青鷺歌仙其九 和聯句

まきん此河草をハ詠く田面卦 永我

土用涼し交芦の奈此谷 緑我

的妹百月も半平城出来多 緑我

猿もあのをさすくの玉 永我

早々に江中て菊は名付純 全

セツと持り鞠の催促 緑我

今此世子も六目かば神軍 同

かーかあく偽作の一僕 永我

たしら香まぶる祢くの瓦屋根 全

禪まゝの鬼は向々奪 緑我

陰持の乳へ矢と流る河田川 同

月を暗く栗はちる 囁 永我

湯に振子かどりも郭公 全

羨まらうしはとぬハ両曲 全

道心とくらふ此教の年次知て 緑我

あど耐ねと人々をさし 同

是ぐまを上中良花 芭 同

又やみまひ子雛の供編 永我

又此負き山もあて佛訶 全

まくんことり此社勢のる 緑我

物の化小ねる中を相 同

多まぐらうく利刀は毒 永我

桑脚の隣と痛まは娘浦 全

皆かえりそのかど細約束 緑我

坂此薙子坦や岩はらん 同

拿法かへは寺のお漬 永我

乙蟹島如海と曰へハ何小中
 永我
 吹浦こくさくいつく場嶋
 全
 壺皿とふして所納の町
 緑我
 菓子屋々派トそ免一
 日
 山^ヤのらーがんの泥窪くく床のみ
 永我
 京へくく^ヤ所路の坊如欲
 全
 宮柱かま^ヤれ星の美先ト
 緑我
 飯のく^ヤゆい^ヤ長生の告
 日
 赤羽の牛も麻て^ヤみ^ヤ庭のと
 永我
 物の^ヤ記^ヤり^ヤや見^ヤ巻^ヤ子^ヤ足
 緑我

録之部

一系次僂其十

唯一系教てある一法書
 永我
 みぬとらこーと小襖の月
 積羽
 雁か^ヤハ曲尺よ^ヤ法^ヤと^ヤ三^ヤ溜^ヤし^ヤそ
 日
 何^ヤこ^ヤ巻^ヤり^ヤる^ヤ巻^ヤり^ヤ旅^ヤの^ヤ四^ヤ呂^ヤ巻^ヤ
 日
 一^ヤ法^ヤと^ヤ巻^ヤと^ヤ埋^ヤと^ヤ巻^ヤ此^ヤに^ヤ巻^ヤれ
 日
 以^ヤ中^ヤも^ヤ四^ヤウ^ヤの^ヤ角^ヤハ^ヤ五^ヤ々^ヤり
 日
 巻^ヤれ^ヤ格^ヤと^ヤ入^ヤく^ヤ松^ヤ子^ヤの^ヤ美^ヤし^ヤれ
 日
 由^ヤ路^ヤの^ヤあ^ヤね^ヤあ^ヤね^ヤあ^ヤあ^ヤん
 永我
 訓^ヤ際^ヤて^ヤハ^ヤ屋^ヤと^ヤ巻^ヤり^ヤ巻^ヤれ^ヤ土^ヤ用^ヤ丁
 全
 ざ^ヤ川^ヤ少^ヤ巻^ヤ是^ヤて^ヤも^ヤ雞^ヤの^ヤ法^ヤ馬
 全
 牛^ヤの子^ヤめ^ヤえ^ヤ舞^ヤよ^ヤ巻^ヤる^ヤ巻^ヤれ
 全
 今^ヤ巻^ヤも^ヤ揚^ヤ切^ヤと^ヤ巻^ヤ巻^ヤ巻^ヤの^ヤ月
 全

す、白ハ湯本の事と消ゆ、永我

経入帝ハ紫去をれむ、全

金保此人の物、海長しを、入、全

おろい年、あくニ、筋た、ね毛、全

花咲ケ、え、子世、派リの、舟、危、私、全

名、養此、栗、中、ま、川、桐、竹、全、大聖寺出、留リ、そ、く、ハ、小、摺、子、木、積、羽

ほ、き、ま、ち、あ、り、て、漸、を、好、し、日

志、而、ま、よ、う、あ、ま、治、養、の、夜、此、頃、日

そ、あ、く、と、の、え、ぬ、中、ち、つ、き、麦、日

糸、の、結、キ、さ、う、と、を、立、て、向、い、城、日

長、高、原、も、れ、く、く、セ、僻、日

負、く、基、と、悔、ゆ、ハ、多、皮、恨、く、日

登、リ、日、和、ガ、吹、流、く、舟、海、永、我

新、漢、の、新、此、字、傳、え、を、較、百、年、全

我、希、奉、書、家、を、み、て、く、全

か、い、く、あ、ま、月、も、言、ま、む、る、後、抄、全

弓、々、や、あ、よ、細、ッ、さ、や、夏、全

菊、法、く、あ、も、河、内、の、新、ご、ウ、全

糸、と、何、形、リ、の、い、と、己、人、積、羽

恙、を、あ、く、ら、を、あ、く、ら、ハ、新、ま、り、日

熊、子、社、日、子、叶、ふ、新、立、日

苔、夜、む、の、被、巾、か、ど、ハ、ま、り、日

春、刈、屋、く、里、の、暮、日

五百斤漢を物ぬききけ 花雷

負て掛つる理と知く 猪角刀 日

痛く沁もあり 猪板前萱 永我

姫松中もさきて通る 秋の風 全

徳子^{ハタ}やうもくく河津^{ハタ} 全

二日月の夜多り子と付くは 花雷

の初^{ハタ}ぬき子解ハ川岸^{ハタ} 日

夫^{ハタ}茶々怪交子^{ハタ}解して物^{ハタ} 永我

ま向子函^{ハタ}を英女の名も玉 花雷

折くハ心^{ハタ}き^{ハタ}下 河原 日

何て肥^{ハタ}く^{ハタ}産^{ハタ} 当 永我

ふり^{ハタ}少^{ハタ}二番^{ハタ}鳥^{ハタ}子^{ハタ}の^{ハタ} 全

目^{ハタ}千^{ハタ}あ^{ハタ}ハ^{ハタ}た^{ハタ}れ^{ハタ}之^{ハタ}月^{ハタ}の^{ハタ}人^{ハタ} 花雷

業歌仙其十二

あとの香と嗅あつくら小のさ 永我

あま^{ハタ}く^{ハタ}に^{ハタ}逢^{ハタ}て^{ハタ}美^{ハタ}秋^{ハタ}の^{ハタ}蝶^{ハタ} 尹督

朝月日^{ハタ}稽^{ハタ}戒^{ハタ}の^{ハタ}あ^{ハタ}ち^{ハタ}あ^{ハタ}ん 日

引ち^{ハタ}流^{ハタ}く^{ハタ}を^{ハタ}ね^{ハタ}狂^{ハタ}ま^{ハタ}の^{ハタ}尾^{ハタ} 永我

山^{ハタ}受^{ハタ}ち^{ハタ}土^{ハタ}彦^{ハタ}ゆ^{ハタ}り^{ハタ}り^{ハタ}家^{ハタ}探^{ハタ} 全

麦も^{ハタ}活^{ハタ}生^{ハタ}の^{ハタ}美^{ハタ}朴^{ハタ}子^{ハタ}り^{ハタ}り^{ハタ} 尹督

心^{ハタ}及^{ハタ}摺^{ハタ}と^{ハタ}曳^{ハタ}メ^{ハタ}ハ^{ハタ}動^{ハタ}く^{ハタ} 墓 永我

善^{ハタ}へ^{ハタ}う^{ハタ}う^{ハタ}架^{ハタ}く^{ハタ}膏^{ハタ}茶^{ハタ}の^{ハタ}貝^{ハタ} 尹督

お^{ハタ}ま^{ハタ}り^{ハタ}て^{ハタ}か^{ハタ}ら^{ハタ}も^{ハタ}ハ^{ハタ}津^{ハタ}の^{ハタ}里^{ハタ}瑪^{ハタ}し 永我

行^{ハタ}も^{ハタ}こ^{ハタ}結^{ハタ}の^{ハタ}苦^{ハタ}此^{ハタ}神^{ハタ}垣^{ハタ} 尹督

待月既子菜の彩芋のうが 永我

路の衣長死る骸の体 尹督

初層の空もはれうらまはれ 同

源塩の桐くさりくさ 永我

西折と居る配所の正元菱 全

元史初る香や降りむさく 全

香と元史とり大工と物作り 尹督

ぬくく雀とま向あふく 同

琵琶まく盤もは美子あふく 同

踏志ぶれくあ人の後 永我

三音あふち子勢至六及ひどー 尹督

地表も止めて葎と出る猫 永我

粥湯女の板のあふくすめ娘 尹督

とろく雪の元は登梯 永我

吹流と杖中も合飲のうらみ 尹督

螢とまをた牛島の月 永我

潮捲て依又入るは清者よん 全

雑の部くくり撰りゆらり 尹督

何とていれ給は津あふく雨斗 同

下段まうくゆりりくま 永我

二つを服紗の上はあま 全

色く一板もあふ仕送り 尹督

桑葉橋の柱崩まうくお柱 永我

云傳まむと揚柳の曲、全

此程の月八下り花の香 尹督
鮎の香もたれりよ香 日

法田系波仙其十三

河川とて川河系一法田彦 永我

禊壇子月ハ出ハ海ハ一々 依山

振之と踊之と有古 梳 日

是の亭主も立流好そ也 永我

半部々畑ハは或中ぬ知り 全

ハ馬とハハも何り流花の流 依山

新戸畑の子継と賣る後堂 日

下谷て馬士のけうこあやも 永我

そら中野畠と係あまこの火 全

あ海へしてや好と種のみ 依山

仇人子姪と祝くもく社と語り 日

牡丹芍薬並如 竹 永我

夜多る月志あくく啼ぬく 全

手桶をつとくく墓古 全

小釣蒔ハ庭溜の上よきんり 依山

麻て何く何く力の重折 日

息及多たぬのむき吸芳り 日

南条りのうらも志あハ勢 永我

みまもハら揚斗の小袖巾巾 全

うねと流くふゆ子投くも 依山

和右のきひゆかハあくもく 日

大谷如名の光行燈 永哉

波人のあまのつゆの輝しよ 依山

まじり白峰のさめくさるる 永哉

夏中子少く細い心の香 全

せく基子後く罪はくさ 依山

かきこころふかたもろくふ失ふ危 永哉

夕ほあまのまじ麻支夜 全

月満れば可欠のあまの影 依山

岸光院の香ハ清リと水 日

外上座ハ秋もはまはあまのま 永哉

方何る人との影みらくが 依山

まじりて唇もよー羊 依山 日

々物あらふれー襟子糸房 永哉

岩本如神のむとくまの白し 全

まじりのあまのまの人ま 依山

添水秋仙其十四

尾崎乃あまのまは海あり 永哉

麻子座しん鶴の一書 南平

澆研月の桂子指さし 日

かきこころふかたもろくふ失ふ危 永哉

法入部の宴ホと喉の秘裕 全

戸極とあまのまの九つの滝 南平

榻つしよ遊みてまじりもろくふ 永哉

螟蛭うはししてまじり 南平

夕煙をす川とわすね紫を所 永我

ほろろ梳て長とくろ待て 南平

沫書に福海のほろろ元と 永我

宝もふねのつらり共 南平

鳴る余雨の身と借に松の徳 永我

文書のとやわしくはれの能 南平

東向をが奥列風の流 夜 日 永我

舞の角ミくろ高汲むし 永我

夕月日雲雀ハかー先一為 全

妙くは流付々きみの大宴 南平

さハくも茶字子と中りあ流連 日

ら中まろく小逆終入より 永我

控くろく先のまにむか合座双樹 南平

行れぬいで草 芳々 永我

隣まろ一日まひくろりり 南平

らん少珍くハ鞠も何々ぬ 永我

有難や何何因果ふ目付後 南平

土も巻くくもくくく色 永我

乃ちまろく並一代の飯如者 南平

名代の紺と天窓くく 嚙々 永我

月もまろくあくと気えて丸い湯 南平

木兎くまろく猫の上り 永我

泣おして着も彼まね海蔵回く 全

ま帆千吹くまろくの勢し 南平

長七口

湯系如心の奥中馬格子 南平

和尚の身々茶々々々いぬ 永我

登横に足車如道々 附全

阿ましの教も善かぬる 其 南

竹伐歌仙其十五

牛よりや大工如若の入と祈 永我

足るをぞく貴もくは止ら 文羊

内籠を約日くく如る見ゆく 日

為如栗の玉はくるり梨 日

羽二重も羽ハもまのまのま 日

脚をもくつらまのまのまのま 日

蕭然と奥家若く六十九 日

くちん元不ー福系如大 永我

名と字まハ唯氏宮と中あり 全

尚ど換メるまの何あやま俗 全

あ及浩の下結まいてる井戸飲後 全

浮世をれくも浄瑠璃の種 全

心中ハ瓶の溜やはまぬく 全

風ふらハぬる月の舟 全

塩竈と崩き下地の浪如音 全

抱まく僧如油一小段 全

神色の欲と結れく二之輪 全

吸はきく史とそくぬ陽を 全

かこゆ月八十八夜通へりも 文羊

隔き森中深なくの夏 文羊

聖天と似よ日やう油の香 日

而臭とくわく切の供 日

温かく化物何は茶の香 日

飛鳥見く子京の志 倒立 日

何の陰ハはぬをむの菓子 日

か乳と汝メてちる子 永我

神の樹ハ草鞋居れよ 全

須磨子くく不自由 全

冷妻比連しも終よき 全

あーくく目ざら 全

病お子 全

羽立スの法成り小竹と 文羊

十年て茶釜の炭ハぬ 日

祖又り石祖母の糸 日

花の下帯の波は幾く 日

こくくく 日

團栗秋仙其十六

茶茶の道系志うと女 永我

あを大事子控さる 登奉

月影此形 日

独梅麻子のあ 日

今朝の赤札の上 日

帆ハ十分 日

措ちふ被も染染安と云 昼嵐

暗い屏風と雲々 長 雨 日

両方子うさしおあつ 強あり 日

芝居のどきくみ 尻泣もを 水紋

学寮やうりりくも一じり 全

眼鏡と膝小貸本とのうち 全

名も何ふ何てもくても火丸出 全

更紗の月お扇あり 止す 全

歩留れ髪あ入ハ四五百糸 全

掘らぬ先くく川口の山 全

どんちんと琉球人も年おむ 全

高少の白小門くの雲 全

名 是れはち海海知くぬ苗とく 全

眉と唇くく具附 乃 全

紀さよと互さくも癒さ 次すら 全

炬燵の足一ゆらんく 全

半桶おむとくもくも氷面後 全

お簾小縫くもくも 全

朱雀くく大鏡とゆらもく 全

宮の字くく見えく 全

及柄と掉さけの尻もく 全 昼鼠

一段と硝色袖と丸おきく 日

月あくかこ何もくもく 日

毒といもくく何く 日

瞻水りりくさる世程人 倉鼠

青野々京の池子看 経 日

奕茶の初夜もゆき船のき 日

まぶ石垣の出来ぬ 持 杭 日

むさうり日子やけぬ院の浄取 日

こころくくくく多菜う成る 日

新蕎麥歌僊其十七

新蕎麥ゆく法留く蕎麥多外 永我

大の斬中浦新 斎 日

今朝此月下りる夜のまきき 日

鞘く光りと暗る 振 え 永我

北受まふふ麻こむ表のぬ 全

蘇鉄此法へ鶴鶴の友 日 例奥

新初く日く社の新く 日

ゆきく見くくく地 永我

松の子と中くく家の下 全

まふ此海子踏く山里 例奥

月杜字何の啼 日 永我

菓種ゆき長令丸かくりりり 全

あふくくく公家此 日 例魚

萬事の能く地花も 日 永我

棒成溜川く遠入 日 例魚

新くまきくく月急の 日 同

新くまきくく月急の 日 同

海棠ハ元ト後リキルウヤ 永我

春^ホル日^ヨも四分七重^ナ 呉服^キキリ 今

空^{ソラ}の智恵^チの目^メハ明^アクぬ 例魚

大^オ事^{コト}ぐる禿^{ハゲ}の髪^{カミ}ハ解^トケ 日

隠^カレキ舞^マ子^コ火^ヒ伸^ノキ喜^キセ 永我

秘^ヒ書^{ショ}に書^カケ物^{モノ}さしハキ^キキ^キ 例魚

名^ナ古^コ心^{シン}ハ忘^ワクと俗^{ソク}の凡^{ボウ}骨^{ボネ} 永我

頑^{ガン}字^ジ如^ニ齒^シウ^ウク^ク 欠^ケテ^テ 例魚

ち^チ解^カ解^カキ^キも^モ中^{ナカ}一^{ヒト}筋^{スジ} 永我

ゆ^ユゆ^ユ浴^{ヨク}衣^イの乾^{カン}く塔^{トウ}の次^ジ 例魚

留^ル寺^ジの奢^セり^リと及^キ吐^ツキ^キ 永我

又^{マタ}俗^{ソク}又^{マタ}姑^コ莫^{バツ}見^ミ小^コ月^{ツキ}も傾^カキ^キ 例魚

唇^{シブ}キ^キも^モ山^{ヤマ}ノ^ノ字^ジ秋^{アキ}風^{カゼ}と^ト知^チル 日

桐^{キナンド}の葉^{エハ}如^ニ新^ニ原^ニ香^ニく^ク名^ナ子^コ字^ジ之^シ 永我

高^{タカ}君^{キミ}ケ^ケ原^{ハラ}と^ト祢^ネ宜^イの^ノ賣^ウ合^カヒ 例魚

し^シ雨^{アメ}ハ^ハ斤^{シユン}側^{ソバ}海^{カイ}く^ク冬^{フユ}も^モ 日

羽^{ハネ}心^{ココロ}の^ノ能^ノい^イ苦^ク長^{チカ}々^々那^ナ 永我

誰^{タレ}結^{ムス}リ^リね^ネも^モ多^タ多^タ組^{クミ}の^ノ心^{シン} 全

未^ミ登^ト畠^{ハタチ}ト^ト麻^マも^モし^シし^シん 例魚

柿^{カキ}欽^{キン}仙^{セン}其^シ十八^{ハチジウ} 漢和

醉^{セリ}ニ^ニ人^{ヒト}一^{ヒト}丸^{マル} 熟^{ジュク}一^{ヒト}柿^{カキ} 永我

碓^{ツツミ}か^カく^クも^モし^シ海^{カイ}初^{ハツ}如^ニ裾^ス 掬^ク寄^キ

緩^{ユル}一^{ヒト}息^{イキ} 下^{シタ}モ^モ 弦^{シタ}一^{ヒト}月^{ツキ} 日

威^イ一^{ヒト}光^{クワ} 此^{ココ}ニ^ニ 玉^{タマ}一^{ヒト}蛆^シ 永我

山並ト又キ一柄ト 永我

西呂如ル日々 永我

貨ニ渡ス橋ヲ分一別ト 日ト

煩テ追レ店ヲ宥一餘ト 永我

目ヨ如ル如ル如ル如ル如ル 全ト

仕事の隙トとシ 永我

捨レ圍ヲ而シテ後ニ捨テ 日ト

身子角トあるト十餘如ル 永我

第ヲ為レ龍ト 藕ノ的ト 全ト

第ハ可レ固ト 控一欄ヲ 掬出

猪ト豆一板ヲ 滄一才ト 永我

請トとシとシとシとシとシ 掬出

糊入如ル如ル如ル 日ト

一柄中ノ如ル 永我

走ニ若一點ニ相一場ト 全ト

噫ト如ル如ル如ル 掬出

如ル如ル如ル如ル 日ト

腦一明ス思ヒ雪ト車ト 永我

証一々ト狐ノ寺一内ト 掬出

挽一々ト犬ハ屋一居ト 永我

先ニ死ス久ト暮一打ト 全ト

不レ揺ラ宜ト駕一卑ト 掬出

如ル如ル如ル如ル 日ト

仲見如ル如ル如ル 永我

永我

とくち実きくはあつて 永我

かこ葉ぬきあつて 吾列

方長木如敷なり投く 永我

米沢町一あつて 吾列

母徳めく後菓子の油 日

香のよ柄如鼻の言 永我

松切子とてしはる後 吾列

手家子如ハ具しぬ 永我

有難い女子不審の 吾列

大陣の足如美とて 永我

叫く飯の飯と美子 吾列

指を為し芝如とて 永我

とらが鳥ハ美ッ此通り 全

春如吸はく美物 吾列

旅と如交はくもく月 日

人子如と如稲じり 永我

河是小橋つめとて 全

種はく河とて寺の 吾列

白蓮とて川とて草 永我

貧乏陶とて下戸の 全

筆情の葉如も底も 吾列

松如甜のやとて 日

神楽歌仙其二十

とつ葉やまぐ調布の 永我

白くきくそ信子芦如穂 信鳥

又此よまの人の如きうりて 日

とら〜如葉お似まね 履 永我

家の月柳〜菊小娘、悪 全

殆ど〜にわ〜ら〜痛む 信鳥

カ子あてむ〜あ〜解る 你等 日

何故〜〜〜枝子乾あ〜 永我

引〜〜〜中〜〜馬 全

志の音あ〜五十三次 信鳥

浄瑠璃も仏の玉如名ありと、 日

〜〜〜〜〜牡丹餅 永我

傘の山月〜〜お場〜 全

七の下り如月の川 浪 全

扇お威後。淋〜〜秋更〜 信鳥

甲列流の耳子 如 日

花解ハ〜〜〜〜〜蝶 日

〜〜〜〜〜〜〜〜〜 永我

お殿〜〜〜〜〜〜の俺 全

平家物語 洋判之書 信鳥

世の中に惜事とさ〜〜柄 日

痲痺の如〜〜〜〜の 永我

長橋の如〜〜〜〜〜 全

海棠と〜〜〜日本 乃 信鳥

此岸の如〜〜〜〜〜 日

とよか見見ハ下戸あゝぬろく 永我

一年は二年如令排の衣 全

枯らぬ樹より人の子を梅 全

若宿如令ほく空月高子 信吾

汝いふ多ね香の物好 日

刈草く花子如禱へ鳩の暮 永我

折云河の神より臭い神 信吾

化きぬ奴ハ宗法師陰坊主 日

桐か一子あゝあ吸壳 永我

泉ありぬ事如鳴日あゝ若 全

雀と雀ハはくろくの寸三 信吾

風歌仙其廿一

みろく少中メくね若も磁寺耳 永我

吐くくをく奥如あゝ池 推敲

雄鳥如餌場子鶴のそらくもく 日

帯布のあゝと巻て帯りん 永我

昏の月お角ト一桐如大盥 全

盃ヌと一子答む 推敲

あゝい吹く強念山乃秋の色 永我

利ル如の髪とあゝり 推敲

杵をい何がかゝい袖ル性 永我

田植の泥よ家内ちく 推敲

事能の心方々知く世と屋 日

帯仕並くくさゝハ此爰 永我

毛茸子克彦の鞍喉如乾がむて 推鼓

二文四文も正月の乾 永戔

むいさぐいさぐいさぐいと気如き 推鼓

あゝ、祓子阿多能治海根 永戔

平若終行草鞋のゆき言此際 全

昔より先へあゝは 錫口 推鼓

毎當りは交と借りて待とあゝ 日

あ仙の為子いさ香いさ 永戔

小索もろ弓もとる子如ト人 推鼓

えや色味方如聴る念仏 永戔

史あてむ車と誰も云ぬる 全

鞍の中へあゝは 推鼓

吉梅如由新ととむと隣く 日

牛の土着子 三條の塊 永戔

寂一山よりふの縁糸と出る亀筒 全

池とよゝて帯 草 針 推鼓

木のこゝろもあゝ現く月如解 日

又小使子阿ひー山 荏 永戔

太刀魚ハ海邊子まこく石如冷 全

湯家督如契子さえ如小 鼓 推鼓

をばるも柱隠しのまくと 日

能くねもまも色寝カ黄 礫木 永戔

咳華小唐如吹の枝平 柯 全

新も七里のまひ日如色 推鼓

頭中次仙其世二

大玉も先なる如く流中く非 永我

會津もさうの鳥えお葉見 歳星

将らへ庭の草やを物くま 日

能く摸雷の物お人醉 永我

飼獲れおらりくはる月更く 全

共平妙くや菊も是さも 歳星

誰法後今菊の復後子仇の皮 日

函子何うに 查の 枕灯 永我

挾笥おく織地と長をよりり 全

書隠くく其く(よ)這よ 歳星

木小角豆如端ととあくは末結よ 日

靴の皮于入 注月の 岸 永我

注文小赤るり石もるや如海 全

まぐ母老の取化く居る歌 全

母の顔どこりくやう 姉 独 歳星

鏡の蓋へ掃よもはる 日

山椒如木の丸殿にひねくま 日

扱破るる葉も着透まを 永我

絹屋尔を為の部如落と電 全

二世如か免く海ハ出 陣 全

細綿如仕立からく子油の居 全

をまらうし 種もはる 土用 西明 全 土

月の反り午時とま水 甚の 日 全

三法子能く生玉如神 永我

乳柱をひびくくくくくくくくく 全

がしんがくくくくくくくくく 全

釣津の割りもさるる町もさる 全

さくさくさくさくさくさくさく 全

縁をくくくくくくくくくくく 全

為もくくくくくくくくくくく 全

息をひきかきかきかきかきかき 全

とある小陰く禪も乾も 全

新晴しや西のくちま屋ハ雲抄 全

社勢のむくくくくくくくくく 全

系人まじりのくくくくくくくく 全

今幸此あさなましくも吾 全

力草歌仙其廿三

名を何くくくくくくくくくく 永我

秋并ぬくく解妙も 和星

古味柔も二番目午彦くくく 日

いけくくくくくくくくくくく 永我

山の隅に多摩子月如歌まの 全

あめあめあめあめあめあめあめ 和星

三抄も一夜のゆき女侍色 日

大坂袖巾着さくくくくくく 永我

さくくくくくくくくくくくく 全

さくくくくくくくくくくくく 和星

待よる温純ハ延く麻ら水陸 和星

捨る水くまふ知ふく 永我

生垣や林の流ま水川町 全

難如涉の流とま子 全

帝為よる土居か心憾 和星

蹶はく石よ瘵まを 同

月彩と透しく花の八重葎 同

志くは且那と中りし出留り 永我

首引の徹まちふ小弓あく 全

玉よ海ほよあく碎ぬく 和星

何多如煤と滑き水の上 同

涉る紙中よ去水人篇 永我

排名て唯一は妓有之候ハ返辞 全

志まはりのりくまッ 裸多水 和星

蔓根太狂ひか候とま 全 同

幸ふも基盤の高ま滞留 永我

笑ハ唯地下水もこれぬむ車 全

珍眼肉中眠まきり 全

落る水細人乃思 和星

民家如秋まほま 同

山くはあく吞まぬ指 永我

いど此両る一足も水 和星

野ま着て干リケ水ま 同

唄念仏のやま 永我

美善なる元来御所油 永我
菅を延もいねる 和星

死鳥御仙其廿四

死鳥を流し青如浮名うぬ 永我

岸の柳如あももそく見 鳥橋

純りかのを記邑(三寄り多) 日

餅よあゝ五指障の音 永我

岩山の行刻し月とおわしん 全

とま河の肥る西如降もさ 鳥橋

初鐘に波河細工も参りし 日

西行よ似く 死作の影 永我

なままわ小姓ハ鬘とねらし 全

と目と打く真くなく御所 鳥橋

孟如月もゆきまきし 日

三とまあそ世よ白くし 永我

五字七孝人あゝ居の秋よあり 全

二艘下をく石の玉垣 全

田系と上より鏡ヶハあゝ語り 鳥橋

ゆきまきく出ぬ清い月代 日

借正よあゝ當座如むさうり 日

くさうおさ(ま)ぬ 永我

阿の御所 御善山のる分派 全

涙一い掬よ三毛ハ麻しあゝ 鳥橋

柱もお流しを御 全如事 日

あんなに辛も飲まぬ夏の肉 永我

盛久の松八目かよひ板子入 全

狐々尾々くる麻の尾々こえ 香檳

新繁とまぬ角力子志とてよ 同

曜如帯と借とてうか作違 永我

毫小口へ及ふ糸を産の春 香檳

きあも志くれぬ行例のち 永我

十徳と若く葉の心ゆ花より 全

苔子為るも石橋此果 香檳

向ふ歯の敵もあし貝の玉 永我

詩をくく今もどんが心 香檳

鶴子ねん時中と並みれと 同

ぬる此浦のくぬい物食 永我

う川多く本社ハ少く花曇 全

東西そのくくう馬牛の音 香檳

鴨歌仙其北五

法頭くを隣くぬ壳の海キ如 永我

浄土をむとえ出まへ枇杷 二調

窮屈な所々客此待合く 同

能い多々少々も唐急こり 永我

玉研此身務自かる夕月如 全

死くく書く端はあり 二調

門前地がくく雨のお撲る 同

しく少々もく唐急世目更の 永我

漢四

為病姑馬磁香湯とさ〜白し 永我

王照馬和貴地や孝丈人 二調

荀子ハ徳者徳の入る盛令房 日

秘訣の枕をうぬ後木花 永我

馬工師ハ陽家ののぞ〜ハ云以事 全

此中を骨子候〜腸子〜 全

膏藥の紋を虎を以て後丸 二調

運譜天譜の茶よ十あ登 日

當小〜二階若あ〜月やと 日

秘庚申如ぬ日の名 永我

はま〜名 峯〜杖夫の落産 全

今あ〜名 油い中〜記 二調

仲人のしら如候〜名 意〜より 日

歌イの長く〜名 初鉄 泉 永我

本町如ゆ〜名 手きよ 丑香湯 全

只ぞ〜名 ち〜あら〜名 二調

雷地養小〜名 八持の折〜名 日

又双六〜名 名 遠〜名 名 永我

流境も〜名 名 備正 倭 競 全

精〜名 名 名 名 上 全

番士川の三日止りて油抄のり 二調

金〜名 名 名 名 吉次 見 日

辻占に〜名 名 名 名 名 永我

あ〜名 名 名 名 名 下 二調

夢淺る老の海は英〜二調

瓶子此側をなすも法番 永我

花の先り沖のふへと表筒男 全

中々く并ふ法る此 夔 二調

神扣歌仙其廿六

涉草独もつとれをさるる 永我

清かろくや暖か 寒 負曆

確此一川 答へ体之平々 日

口より表とへ 崔新めめ 日

昔の月詩あり五云より 日

吹ヶハ鳴とや 芦の紫は苗 日

軟立此汁と 鶉子肝と名 日

酒々 確ととあ〜 日

後家朝と 柳ととあ〜 日

半分恨と書かもて 柳 永我

遠留のうら何事も 日

相ヶ各々り月の日々 全

化のろけ 狸ハ 鹿子 全

是の 狐 織の 似合 全

其石の生々 匙と名 全

雁首とろり 川を捨 全

宮古此 著り 日 全

蛙も少〜 文官 乃 全

源氏云 雛の 屏風 也 貝合 負曆

主^レの婆^レふ^レふ^レは家来も婆^レ 貞曆
 今も其途中て禪と愛あつた日
 鳥の名と鳴ふ寺に観音日
 笋より多く竹の減る半友生日
 葵さくは^レ中^レを^レか^レ日
 狼のおもひやう人お指さす日 永我
 嘘てもうと^レ世界^レを^レ物と^レ全
 秋也^レの龜^レの^レあり^レ飲^レま^レり^レ全
 二王と公眼か^レを^レ四^レつ^レ子^レ全
 予^レは^レ新^レ小^レ結^レひ^レを^レ言^レ後^レ日^レ全
 風^レや^レく^レり^レて^レ階^レさ^レらん^レ全
 尾^レ狹^レく^レる^レは^レ池^レに^レ所^レあり^レ日^レ全

隠居の榮耀捨全く空^ク 全
 目と鼻へ幸子如^レ外^レ子^レ志^レの^レ道^レ 貞曆
 森^レ屋^レ如^レ秋^レハ^レ水^レ流^レ言^レ砂^レ日
 玄冥へ草履を^レく^レ人の^レ美^レ日
 有^レる^レ中^レも^レ土^レ地^レ如^レ砂^レ日

眞歌僊其廿七 和漢

河豚挽^レく^レ行^レの^レハ^レ河^レ西^レの^レ幸^レ志^レ 永我
 吞^レ一^レ口^レ 酒^レ 寒^レ一^レ声^レ 竹我
 居^レる^レ海^レを^レ度^レ子^レ建^レる^レ日
 肘^レの^レ曲^レも^レく^レる^レ志^レ傾^レく^レ 永我
 無^レレ^下蓋^上 牡^レ一^レ丹^レ 月^レ 全
 有^レレ^下菘^上 螢^レ一^レ火^レ 槍^上 竹我

後四三

竹我

永我

全

竹我

同

永我

全

竹我

永我

竹我

同

永我

名

全

全

竹我

同

同

永我

全

竹我

同

永我

全

竹我

漢四書

疾瘡と先をえらうく添搔 永我

昔やえらんと半姉警 竹我

馬一追ハ橋 動一々 同

牛一若ハ谷ッ 丁一々 永我

幕杭のむ見例ハ黠一 全

不レ残ラ借一金ノ耕 竹我

春之部

元朝秋仙其廿八

上戸も恙とく傍りり々節の去 永我

まこ一位の付一たろろろ 臣水

鳥を好居い流とまえはくま 同

道中池あまの川で指息去 永我

けはと月あろろれま川ふま 全

人の名鳴あま御奉出下 臣水

事觸とあまます七石ふ奉 同

あゝむ習川と眼鏡見好入 永我

りの音先詔當も翌まの義 全

此世は船と琴あま若ん 臣水

あまおとあまの字はあがり 同

とまやせとる菜のまの食 永我

廊さの涼くあゝあ車 臣水

世刀まゝ捨るま 鞋 永我

外篋て剥為あまの作り 臣水

入おらろく唱庵あ月 同

石室もあぐ人あまはるる
永我

天上より男ア〜
全

遊戸あや百万遍あ登一
臣水

どんどろろ子名権の浅
永我

灯火のふれあはるる
全

鶺鴒が〜と毛を敷
臣水

封月と大事子掌てお務り付
永我

〜のふりあはるる
臣水

寂〜角あふ麻の付る
同

柳々流るる
永我

珠搔の八十八夜月文
全

平言斗や砂流るる
臣水

何れも〜志賀の都此
同

洗濯給三川少き
永我

張房のふり〜瘦ぬ
全

孫めと免るる
臣水

傘をと澄るる
永我

歩廊えりり馬は
全

坂下〜茶子の精る
臣水

目みは〜
同

新秋仙其世九

〜色ハ〜
永我

陰〜白
再羽

麻の角為〜
同

拾子一孝子と掃ひりり 丹羽

繪とてと少加(日月の事) 日

札子と少孫録のふりし出 日

袖垣始為ま紙並を祀れ萩 日

筋遠し子すく候い口上 日

憂と知立れ意と候為の者 日

狎が多しとく候を小 枕 永我

いととめ昔の妙る意良の京 全

踏てとつと参り 舞殿 全

と何多とと綱糸とたき 田植 全

あ井の葉子出る之日 月 全

並まはるおきしのあか 力ん 全

五郎と判る少打をい止む 全

法白子元の何るどい赤馬帽子 全

まっまの^名 迎多候も 矢 全

層中切とめそく 泣出 一 丹羽

吳見の人姑怖しく 立 日

幸助のうら^りと危ま 日

く^りい^りあ^りと意 日

非ねや踊と神姑い^り先と 日

涼^りあ^りと^り元^りの^りさ^り 日

生碎姑は舞はり^りお^り扣^り 日

三ツ目の賀子及^り少 日 永我

ふ^りと^り乃^り字^りと^り杖^りと^り 全

傘の供し〜日雨りの旅 永我

長あ〜指さる月の夕境 全

カ せんご〜情へぬある例乞 全

刀豆のまぶふ満る花の夕境 全

茶碗に元氣を扱ひか〜 全

きも何をも念者名代と惜りよ来ん 全

去ハ娘もさう〜か〜日て 冉羽

袖笠と情をよ〜る花の夕境 日

烟の才と情をよ〜る 日

破葉歌仙其三十

貝売と人子逢ふる破葉の歌 永我

東西かく風よめさしる亭 采泉

我夜を維子よ〜る破葉の歌 日

あ〜生〜るや〜る如き草 日

暑とりおろおろありきあの日 日

西風を刻〜秋と感をもる 日

下寺の約境祝く女郎む 日

金の膚 惜〜るの〜 永我

独麻の〜急よ〜る風の音 全

叶をぬ〜る〜使あ〜るを 全

乃さよ下よと云れ名〜付く 全

豆腐羹切る高井如月 全

昔之殿如鳴も〜る壁障 全

昨通の膝如光る那内 全

七揚々二重に安うてあふそり 永哉

河吞まぬ日の脈なるとも 全

母負ふく神の信庭あむの信 全

二つちんぐり際くの長 全

類秘とむくい合ふ縁八重糸 采泉

淵田一まじると存けの池 日

日中うらふくハ衣腹のとせうく 日

晴れ屏風よりまきの西 日

投あつたつと並子井並糸 日

扇の自も知る居候此信 日

指を日由樹のあふぬかばて 日

金貨とててもごまかす 永哉

八九年髪とけし髪と茶と 全

火籠白くくあうら啼らん 全

清うゆ波とんでてその月如暈 全

白あ流長川城 全

鬼灯ハ和泉式部ト口ト口 全

三十二相 鶴と扇 采泉

衣杉子ハさぬり急る湯子の帯 日

かぎ一人のあひ百中の澄 日

ゆ流れ力やあうり孝の心 日

さうさう 端一坊他く孝 日

凍飲仙其世一

嶽とあや鶴見か(あ)あ車 永哉

水と柔和千折るる柳 中和

入るる御椽玉比查あつて 同

彼も春の現るるより 永我

高らふおまの泊ハ冬は月 全

川の匂いも石 橋 音 中和

肝臭おまの野宮の其あま 同

恰もおまのなまかりよき 永我

風と人おまの海も吹流し 中和

鳥の下ろし十おのめしん 永我

あつ出おまの夏留と知れぬ 中和

まが指の入りおの移徒の巻 永我

おの海崎細引ハあり約じハ 中和

雨と川月おまの春も 同

神寂て下戸おのあまの 永我

おまの海崎細引ハあり約じハ 中和

いさげハ二お温泉も負とむの幕 永我

おまの上まゝ蒸云たハ 響 全

世も度悟ハぬ糸ハ平四郎 中和

肌のお守りおまの履片ハ 永我

溝尺お看板の釘や思ふハ 全

ハ揚とあつてハ故ハ魁む程 中和

落萐とまおのあ挿の泥と浴 永我

清地の松お賣とるハあり 中和

佐陽御ふあの上ハ白髪あり 同

漢字

内々曜川くもるは孝行 永我

必其の種あるまてと新行也 全

源まゝ女も成りし 中和

草込天の眼とみ晶のまゝ 同

柔う如腰と踏並し 永我

くく如の指殿も同し 全

河あもまはるは 中和

あはまんくく如 永我

大名日午丁 全

惜し如き一川あま花の 中和

若も如ん 同

天花菜次仙其世二

土筆野子誰う如珍し 永我

陽を登る如 立笑

溝川一更けきよあ場く 同

隣の櫓も南うああり 同

口切如欲立とち 同

名はさめく 同

よの中あい 同

琴よりあま子 同

怖し一周縁を 同

浮世の世縁を 永我

新くくあま 全

吹倒とも 全

河のどろく口とそよ風のそよ風し 永哉

暖簾の出まゝくまよふ月 全

欠落の跡をさうせよ何路りり 全

哲也帝も飲しけりいのかい 全

供へるといぬ死ねむはる 全

あらびくまゝのまの土師目 全

名
夕暮二の橋くくり下げて並く 立笑

手鏡もええぬ中忌 日

形小あやま子と夜連しき 日

田の痛もあはれ溜あゝ 日

山色を先出地色よ帆を亦 日

娘とくるとまじハ 日

お寺くろ大小あゝ里帰る 永哉

高も河とくに智神の松 全

湯あがりや蛤の島吹てえは 全

原もやいし道ゆゝ 全

まは月地も星照る長神地 全

押あやまゝ痛んまゝの 全

立床もたひ継ぎしこの糸 全

色くろくそえ祿新板の平 全

ぐんせまゝとせと福が仏 立笑

宣紙の種もか川と 日

花の戸ふまゝにけし物ねい 日

池とまゝかみさく後 日

朝倉秋山其世三

新修の如くくをきく豊和 永我

名と徳とある場の羊松 常列 居於

細少の如くくは月と云出くく 曰

持もあつくと床精ひまわり 永我

焼くはより梵や危ぬく人 全

汐次くく後く釣屋の山 居於

拍子本ハ囉の浮沈若くは 曰

その一日ハ大名の如く 永我

世の中や金銀物如く 全

伽藍の文章の如くハ吉原 居於

福徳を我の如く持く 曰

老いごとくく研上ケく月 永我

折新の安木隅のやうな 全

後者もせよと云はく兄 居於

老師くく衰衰あるそ大和尚 永我

古路の謂くく入 湯 居於

提きかくくと云ふハこの 曰

道あふまへ雉子化さ 永我

名 出留りのまは子散もな 居於

糸雨の如くは 永我

忘先のくを暗くある 杜 居於

折句一首少く 永我

物業の如くは後トの怪な 全

吃の使みちの長い啓師 居於

臆をさしひみきとも掃除婦 日

高子遊こむ神の力さし 永我

勅諭の志介も借小し近の浦 全

名もむらうりよふ云この貝 居於

芋黄のやうなほふたろふ灰 日

小僧湯を木犀の茶 永我

有り初何り歎きの術と後長し 全

込袋の外にほの初さき 居於

地坊子地路の事も著て是り 日

思り八音や金瓶引ッはく 永我

吸あしむ花の未社の朽くも 全

きかたるうに三月の海 居於

霞歌仙其世四

吉原北酒賣ぬ日と素 永我

藪くくお妻のあい谷の戸 賀亭

長深さ八橋の被如弟の根平 日

冠者吟よあうり 恋子大志 日

面白く光りの沈む琵琶の月 日

法おそ是やとえぬ太刀魚 日

麦飯も蕎麦切子似く秋の着 日

西う留してうあうさほ 澄 永我

とうと海ってらるくの花莖 全

土人形乃修持の果 全

牛言小為始まの斤ミハ 永我

町の名四一七ヤリ神の名 全

神楽のおもふ方また冠 下 全

かろ所長御おく多斗と息 全

めまのや御棊の何なる雁披子 全

十日まで羊玉お月 全

六條の交夜と花の虫あしひ 全

てふとんをかー柳子まゐる 全

^名歴との名と消炭まけとまね 賀亭

唯一群這入ハ大寺 日

掛羅かかぬまが菟借のあまひ 日

使をまゐり牛のぬるはよ 日

下りく鬼も七日小松原 日

氏子もは（お鮎口の怒り 日

煮ーる小徳あお武士仲居 日

拍傍まゝく屋くかゝ 状 永我

あけ猿ハおむおぬるまあらも 全

誰々あゝく承莫子り 全

青お月若原まゐる燈の火 全

おまのぬま垣のよと 全

おま〜（秋の摺餅おまを 全

木馬子のまゝく小僧月代 賀亭

法塔お小付る菜もあうりり 日

うごがひのまゝのる糸巾 日

何れく近くすゑるむの夜 望亭
おろそけとけさるる者解 曰

杏子花秋仙具世五

砂浜まじく待やわんがむと盡り 永我

藥もおぼえやとた門口 昼眠

世は人かたしと出るとも来うとく 曰

其の中あつてもうを女の身 永我

大小とさるふ月の如仕 盃 全

いどりあがりと眠く暮るの身 昼眠

まじくさう一を袖に秋の山 曰

水と草ひかり帆と下て来る 永我

音くすめる谷川死か流加減 全

庄倉か菽の村まじくこね 昼眠

活人の食か種みと麻方規矩 曰

習ふと切りの藪あつらん 永我

襟隙に言と欺くまきく 昼眠

まじくと利も妓有の遊徒 曰

分別と皆姐著の先あり 永我

官位もまじく羽置の初午 昼眠

斤断は月とまじくを双宿 曰

網のまじく雀かまじく羊外 永我

名 及まじく書か流石の和証 全

疵病と痛んで回リ投持哈 昼眠

白雨と精しく候の背戸此 曰

お流 嗅い 後 青 如 真 永 我

斤 子 尺 和 根 の 下 々 勢 維 の 肘 全

暗 燈 灯 々 々 々 々 々 足 昼 眠

北 西 々 々 常 常 々 々 々 の 々 日

輪 の 眼 濁 々 々 々 々 永 我

夢 合 々 々 爲 主 々 々 子 小 瑞 立 昼 眠

怖 い 咄 と 呵 々 々 々 昏 永 我

名 々 月 子 々 々 八 滑 えて 々 々 斗 全

野 々 々 の 々 々 々 四 条 淋 々 々 昼 眠

操 于 以 又 々 々 々 々 秋 の 々 永 我

世 と 々 々 々 々 々 々 々 々 々 全

々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 昼 眠

あ ぐ 損 徳 も 々 々 々 々 々 日

上 下 子 旭 の 旬 々 々 々 永 我

流 々 先 々 々 々 々 際 の 道 連 昼 眠

花 飲 仙 其 卅 六 漢 聯 句 惣 對

將 一 暴 二 花 一 有 一 浴 永 我

籠 一 裏 一 柳 一 無 一 測 盛 泉

和 二 豆 一 腐 一 春 一 月 日

披 二 香 一 包 一 土 一 樵 永 我

聴 二 漕 一 沖 一 沌 一 々 全

朝 二 聽 一 道 一 悠 一 々 盛 泉

殿 一 豎 一 臺 一 天 一 霽 日

卿 一 横 一 笛 一 野 一 流 永 我

教^ニ 筆^ヲ 牙^ハ 根^カ 瘡^シ 永^我
 著^レ 冠^ヲ 眼^ノ 上^ノ 瘤^ヲ 盛^泉
 虎^ノ 落^ル 人^ヲ 芦^ノ 屋^ノ 日^ニ
 夷^ノ 中^ノ 月^ノ 麥^ノ 秋^ノ 永^我
 送^レ 馳^ル 鳥^ノ 割^レ 鷗^ヲ 全^ク
 輅^ノ 牛^ノ 不^レ 遣^ラ 溝^ヲ 盛^泉
 敲^ラ 漆^ヲ 世^ノ 尊^ハ 倡^ノ 永^我
 揭^レ 燈^ヲ 陰^ノ 摩^ノ 仇^ニ 盛^泉
 被^レ 粘^レ 灼^ヲ 藪^ノ 入^ル 日^ニ
 母^ノ 用^ル 履^ヲ 櫻^ノ 菟^ノ 永^我
 堇^ノ 生^ル 坪^ノ 坂^ノ 壺^ノ 盛^泉
 梅^ノ 若^ハ 角^ノ 田^ノ 飯^ノ 永^我

終五七

折^言 文 操^ニ 粉^ノ 糞^ノ 全^ク
 愛^レ 敬^シ 止^ニ 饅^ノ 頭^ニ 盛^泉
 千^ノ 萬^ノ 貫^ノ 銀^ノ 筍^ノ 日^ニ
 二^ノ 三^ノ 四^ノ 幟^ノ 堦^ノ 永^我
 成^レ 程^ノ 錐^ノ 傳^レ 軸^ヲ 全^ク
 御^レ 免^ル 可^レ 看^ル 鞦^ヲ 盛^泉
 深^シ 閑^ニ 精^ノ 舍^ノ 雪^ノ 永^我
 慮^ニ 吳^ノ 竹^ノ 村^ノ 商^ノ 盛^泉
 羞^ハ 明^ニ 良^ノ 夜^ノ 水^ノ 日^ニ
 泊^ル 谷^ノ 木^ノ 濱^ノ 鷺^ノ 永^我
 朝^ノ 顏^ノ 塗^リ 白^ノ 碎^土 全^ク
 夕^ノ 髮^ノ 結^ニ 音^ノ 樓^ニ 全^ク

終五八

早	初	商	陸
一	一	一	一
歲	花	人	者
欲	難	全	少
撈	折	絹	福
球	帝	細	一
日	盛	永	盛
	泉	哉	泉

續編斤相千集
 誹歌傳三十六卷終



Handwritten calligraphy in black ink, consisting of several large, expressive characters, possibly a signature or a title.

